

グローバル・カフェ「タイイベント & 留学報告イベント（チェンマイ大学編）」を開催しました

2023年7月4日（火）、グローバル・カフェでは「タイイベント& 留学報告イベント（チェンマイ大学編）」を開催しました。インターナショナルオフィス・留学生センターの「さぬきプログラム」で日本語や日本文化について学んでいるタイ・チェンマイ大学（以下、CMU）在籍中のJoyさん、Wさん、OmaさんよりCMUの紹介をしていただきました。また、教育学部のCMU短期派遣プログラムに参加し、2023年2月から3月にCMUへ短期留学された、荒川空さんと松浦圭真さんから現地での活動報告がありました。留学生4名、日本人学生2名、教職員6名の計12名が参加しました。



CMUはタイ最古の大学で、21学部で約3万8千人が学んでいます。OmaさんによるとCMUでは、大学指定の制服はないものの、上は白、下は黒と色が決まっているそうです。男子がスカートを履いていることも多く、ジェンダーについてはとてもオープンであるそうです。学内には医療施設があり、一般的な診療だけではなく歯科医療も行っていて、手軽に安価で医療サービスを受けることが可能だそうです。親知らずの抜歯にかかる費用は数百円であると話され、参加者からはその安さに驚きの声があがりました。

WさんからはCMU周辺のレストランや施設について、紹介していただきました。近くに「Kad Na Mor Market」という有名な市場があり、地元の新鮮な野菜、果物、魚介類、肉類、衣料品や雑貨なども販売しているそうです。市場内には多くの飲食店もあり、地元民や観光客に人気であると話されました。

Joyさんからはチェンマイの地理、気候、歴史などについて、日本語で紹介していただきました。チェンマイはタイ北部に位置する、タイで2番目に大きな都市です。寺院や歴史的な建造物が多く、日本の京都に似た雰囲気や風景があり、「タイの小京都」と呼ばれているそうです。また、最も有名な観光地として「ワット・プラタート・ドイ・ステーブ寺院」を挙げ、タイ北部の最も神聖な場所として知られており、「ドイ・ステーブの参拝なくしてはチェンマイに来たことにはならない」と言われるほどの名所であるとのことでした。

続いて、CMUへ短期留学をされた荒川さんと松浦さんより、留学中の活動等についてお話しいただきました。CMUと香川大学は1990年4月24日に大学間協定を締結しており、教員や学生の交流が活発に行われています。CMU短期派遣プログラムは、寺院訪問やホームステイを通して異文化交流を行う前半組（2週間）と、現地学校での活動を行う後半組（2



週間)に分かれており、荒川さんは前半、後半の両方に参加しました。イベントでは前半組で行った活動について紹介していただきました。

プログラム参加中は、学生一人一人にバディが付き、空港への送迎や、プログラム活動、さらには食事も共にし、バディとの深い絆を築くことができたそうです。滞在中にタイ北部の最高峰である「ドイ・インタノン山」を訪れた際、宿泊場所には電気もガスもなく、トイレは手動で水を流し入れなければならない、シャワーは冷水であるなど、普段、当たり前のように電気やガスが使用できる環境にいたことが、とても幸せなことだと身をもって実感したそうです。

プログラム後半組に参加した松浦さんは、タイ観光庁チェンマイオフィスを訪問した際に、現地の観光庁職員からタイに観光客を呼び込むために必要な「5つのF」つまり、Food (食べ物) Film (映画) Fashion (ファッション) Fighting (格闘技) Festival (祝祭) について学んだそうです。なかでも「Food 食べ物」には力を入れており、トムヤムクン、グリーンカレー、サテーなどを路地や市場で手軽に楽しめるように、街のストリートフードを充実させることに重点を置いていると話されました。



滞在先であったクラビ地方の宿では SDGs に関する取り組みとして、歯ブラシやヘアブラシの提供を中止したり、フードロスを最小限に抑えるために調理量の見直し等を行うなどした結果、このような SDGs の取り組みに賛同する観光客が、多く訪れるようになったのだそうです。

「タイでの最大のカルチャーショックは何ですか？」と聞かれて、松浦さんは「タイフード。想像をはるかに超える辛さであった。」、荒川さんは「自転車の多さに驚いた。歩行が難しいほどであった。」と答えました。



次回イベント：7月6日(木) ブルネイ・ダルサラーム国イベント